北斎 ゆかりの地マップ

江戸と現代の“すみだ”をつなぐ
タイムトラベルガイドマップ

【新板浮絵両国橋夕涼花火見物之図（部分）】

“すみだ”と北斎

墨田区は長い歴史をもち、東京23区の中でも、特に古い行事や伝統技術を残している区のひとつです。こうした歴史を誇る区内から、様々な活躍をした偉人が多数輩出しています。その中でも、国内外の芸術家に大きな影響を与え、世界的にも評価が高い浮世絵師“葛飾北斎”は、宝暦10(1760)年9月23日に墨田区で生まれ、その生涯のほとんどを墨田区内で過ごしながら多くの作品を残しました。作品の中には、両国橋や三囲神社、牛嶋神社など、当時の区内の景色を描いたものが数多くあります。

墨田区では、郷土の偉大な芸術家である北斎を、区民の誇りとして永く顕彰するとともに、新たな文化創造の拠点ともなる、北斎に関する総合的な美術館「すみだ 北斎美術館」を北斎とゆかりの深い墨田区亀沢にある緑町公園内に開設します。(平成28年11月22日開館)

【北斎肖像（冨嶽三十六景）】

「北斎ゆかりの地マップ」 平成28(2016)年11月発行

発行：墨田区 ☎03-5608-1111(代表)
編集：墨田区区民活動推進部文化振興課
　　北斎美術館開設担当
協力：(財)墨田区文化振興財団

すみだ北斎美術館

つながる墨田区

① 関屋の里

堤通二丁目辺り～足立区千住

古地図／ニの一　現代図／C−1

【冨嶽三十六景　関屋の里】

関屋の里は、現在の隅田川神社辺りから足立区千住までの隅田川沿いを指します。平安・鎌倉時代には大きな集落がありましたが、その後は田地となっていました。北斎は、大きく土手を描き、３頭の馬を疾走させることによって画面に動きを作り出しています。

② 木母寺

堤通二丁目16番1号

古地図／ニの二　現代図／B−1

【風流隅田川八景　梅若の秋月】

風流隅田川八景の内の１枚です。このシリーズの特徴は隅田川沿いの名所に美人を配して描かれていることです。この図は、木母寺に古くから伝わる「梅若伝説」を題材にしています。伝説では母子は出会えませんでしたが、本図では女性と子供が仲むつまじい姿で描かれています。

③ 隅田川神社

堤通二丁目17番1号

古地図／ニの二　現代図／B−1

【雪月花　隅田】

雪月花を題材とした３枚揃の１枚で、かつて樹木が生い茂っていたことから水神の森とも称された水神社(現隅田川神社)あたりを描いています。中央は「梅若伝説」で有名な木母寺です。人家もまばらで寂しげに描かれていますが、風流を好む人々が訪れる風雅な土地でもあったようです。

④ 法泉寺

東向島三丁目8番1号

古地図／ホの三　現代図／B−2

【寺島法泉寺詣】

鎌倉幕府を滅亡させた新田義貞の守本尊、髻不動明王が安置されていることで有名な法泉寺の参詣の様子を描いたものです。縁結びの神である金勢大明神の鰐や石柱がありますが、法泉寺が金勢大明神を祀っていた記録がなく貴重な資料です。

⑤ 白鬚神社

東向島三丁目5番2号

古地図／ホの三　現代図／B−2

【絵本隅田川両岸一覧　白髭の覆松　今戸の夕 烟】

高輪から吉原まで季節の流れと共に隅田川両岸の風景を描いた北斎狂歌絵本の代表作の内の1図です。手前に今戸(現台東区今戸)の瓦焼の様子を、また対岸に名勝地であった白髭明神社(現白鬚神社)の鎮守の森を、秋の夕暮の下に描いています。

⑥ 三囲神社

向島二丁目5番17号

古地図／ニの五　現代図／B−3

北斎の絵が花を添えたご開帳

寛政11(1799)年に行われた三囲神社の開帳では、北斎が絵を描いた提灯12張と大きな絵額が評判を呼び、多くの参詣客が訪れたといわれています。この提灯と絵額は、残念ながら現存していません。

⑦ 牛嶋神社

向島一丁目4番5号

古地図／ニの五　現代図／B−3

幻の奉納大絵額

北斎は、弘化2(1845)年頃、牛嶋神社の近くに住んでいたといわれ、大絵額「須佐之男命 厄神退治之図」を描き、奉納しています。残念ながら、この大絵額は関東大震災で焼失しましたが、現在、社殿には復元したパネルが飾ってあり、その図様を知ることができます。

⑧ 達磨横町

東駒形一丁目辺り

古地図／ハの六　現代図／A−3

北斎と火事

天保10(1839)年、達磨横町に住んでいた北斎は、生まれて初めて火災に遭いました。この時北斎は、筆一本を握って家を逃げ出し、しばらくは割れた徳利を筆洗いにして作画を続けたといわれています。

⑨ 法性寺(通称 柳嶋妙見)

業平五丁目7番7号

古地図／ホの六　現代図／C−3

北斎ゆかりのお寺

北斎は、熱心な日蓮宗の信者で、妙見菩薩を信仰し、柳嶋妙見へはたびたび参詣していたようです。「北斎辰政」という画号は、北斗七星(北辰)の化身といわれる妙見菩薩にちなんだものと考えられています。

⑩ 厩橋

本所一丁目辺り

古地図／ロの七　現代図／A−4

【冨嶽三十六景　御厩川岸より両国橋夕陽見】

現在の厩橋辺りにあった御厩の渡しの情景です。夕闇せまる一瞬をとらえ、左に両国橋、中央に富士山がシルエットで描かれているのが印象的です。穏やかな隅田川を描いた作品ですが、この渡し舟の周りだけは波立ち、効果的に動きを表現しています。

⑪ 肥前平戸新田藩 松浦家の上屋敷

横網二丁目辺り

古地図／ロの七　現代図／A−4

【絵本隅田川両岸一覧　首尾松の鉤舟　椎木の夕蝉】

江戸幕府の米蔵(現台東区蔵前一・二丁目)にあった首尾の松と釣り客らを画面いっぱいに描いています。釣り糸の向こうに、「本所七不思議」の一つに数えられる椎の巨木があった肥前平戸新田藩松浦家の上屋敷が見えます。

⑫ 駒止石・旧安田庭園

横網一丁目12番1号

古地図／ロの八　現代図／A−4

【馬尽　駒止石】

墨田区側から隅田川を描いた図です。手前に駒止石、奥には富士山がみえます。駒止石の由来は諸説ありますが、源義家による奥州征伐の際、義家の馬が石の場所で止まったからともいわれます。当時、石は絵のように隅田川岸にありましたが、現在は旧安田庭園内に移されています。

⑬ 御竹蔵

横網一丁目辺り

古地図／ロの八　現代図／A−4

【絵本隅田川両岸一覧　新柳橋の白雨　御竹蔵の虹】

手前に大きく神田川河口に架かる新柳橋(現柳橋、台東区柳橋一丁目)と、突然の夕立に急ぐ人々を活写しています。左奥の橋が現在姿を消した御蔵橋で、その奥に御竹蔵と呼ばれた江戸幕府の材木蔵(現両国国技館辺り)がありました。

⑭ 両国橋

両国一丁目辺り

古地図／ロの九　現代図／A−5

【絵本隅田川両岸一覧　両国納涼　一の橋弁天】

江戸屈指の盛り場、両国広小路(現中央区東日本橋二丁目)から、納涼の人出で賑わう両国橋をダイナミックに描いています。右奥の橋が一ツ目の橋とも呼ばれた現在の一之橋で、近くの森が一の橋弁才天(現江島杉山神社、千歳一丁目8番2号)です。

⑮ 回向院

両国二丁目8番10号

古地図／ロの九　現代図／A−5

北斎の大パフォーマンス

北斎は、120畳近い大きさの紙の上を縦横無尽に駆け回り、巨大な絵を描く大パフォーマンスを生涯に何度か行いました。区内では、回向院の境内と本所合羽干場(現本所三丁目辺り)で行ったといわれています。

⑯ 吉良邸跡・本所松坂町公園

両国三丁目13番9号

古地図／ロの九　現代図／A−5

北斎と忠臣蔵

北斎の曾祖父は、赤穂浪士討入りの夜、吉良上野介を守って討ち死にした小林平八郎だと北斎自ら語っていたそうです。また、北斎は幼少時に幕府御用の鏡師、中島伊勢の養子になったといわれていますが、中島家は、吉良邸の跡地にありました。

【新板浮絵忠臣蔵　第十一段目】

赤穂事件を題材とした浄瑠璃や歌舞伎の演目「仮名手本忠臣蔵」の大詰め、吉良邸への浪士討ち入りの場です。浪士に囲まれて孤軍奮闘しているのは、吉良側の剣豪、小林平八郎と思われます。この図は浮絵の様式で描かれており、軒先や建物のラインが奥行きを感じさせます。

⑰ 本所割下水・北斎通り

亀沢一丁目7番～錦糸四丁目10番

古地図／ハの八　現代図／A−4

北斎誕生の地

北斎は、宝暦10(1760)年に、本所割下水付近で生まれました。割下水という名の由来は、江戸時代、通りの中央に掘割があったためといわれ、その掘割を埋め立てた道路は、現在「北斎通り」という愛称で親しまれています。北斎通りのうち亀沢一丁目から四丁目では街路灯などにプリントされた北斎の絵を鑑賞しながら街歩きが楽しめます。

⑱ 本所林町三丁目

立川二丁目辺り

古地図／ハの九　現代図／B−5

北斎とオランダ商館長

北斎は、30代後半から40代の初め頃、本所林町の甚兵衛店という長屋で暮らしていました。その頃にオランダ商館長の依頼で、男女の生涯を題材にした絵巻物を描いたといわれています。

⑲ 榛馬場・榛稲荷神社

両国四丁目34番11号

古地図／ハの八　現代図／A−4

晩年の北斎と娘のお栄が暮らした場所

天保年間(1830～44)の末頃、北斎は娘のお栄と本所亀沢町の榛馬場に移り住みました。北斎の弟子が、住まいでの親子の様子を絵に残しています。

【北斎仮宅之図(霞木為一画)　国立国会図書館蔵】

⑳ 津軽屋敷・緑町公園

亀沢二丁目7番

古地図／ハの八　現代図／A−4

北斎と津軽越中守

すみだ北斎美術館の建設地周辺は、江戸時代、弘前藩津軽家の上屋敷があった場所です。北斎は、藩主である津軽越中守の依頼で屏風に馬の絵を描いたといわれています。

北斎ゆかりの地　北斎が描いた場所

【北斎ゆかりの人物】

烏亭焉馬
本所相生町(現両国四丁目)に住む大工の棟梁の子として生まれ、戯作者、狂歌師として活躍しました。また竪川沿いに住んだことから(㉑烏亭焉馬居住の地説明板　千歳二丁目14番　古地図/ロの九　現代図/A−5)立川焉馬とも称し、落語の中興の祖としても知られています。北斎は焉馬の読本などに挿絵を描いています。牛嶋神社(⑦)に自らの句を刻んだ狂歌碑を建てています。

大田南畝
南畝は幕府の御家人で洒落本などを執筆した文人です。 蜀山人、四方赤良と称し、大流行した狂歌の中心的人物としても有名です。北斎の友人で、北斎の肉筆画に賛を書いたり、『北斎漫画』などの絵手本に序文を寄せたりしています。牛嶋神社(⑦)や長命寺(㉒向島五丁目4番4号　古地図/ニの五　現代図/B−3)に南畝の漢詩や句の石碑があります。

式亭三馬
寛政中期から文政(1794～1818)にかけて活躍した戯作者で、黄表紙や洒落本、読本などを数多く手がけており、『北斎漫画』七編には序文を寄せています。木母寺(②)には、竹本義太夫が先代達のために建てた浄瑠璃塚の碑があり、三馬による碑文が刻まれています。

山東京伝
黄表紙の作者である京伝は本姓を岩瀬、名を醒といいました。江戸を代表する作家として、数々の洒落本や滑稽本を世に送り出しました。北斎とも何冊かの黄表紙で仕事をしました。作家としてだけでなく店を開き、紙製煙草入れや丸薬を売り大評判をとりました。文化13(1816)年56歳で亡くなり、墓は、岩瀬醒墓として回向院(⑮)に現存しています。

十返舎一九
滑稽本『東海道中膝栗毛』の作者として有名です。北斎は一九の合巻や滑稽本に挿絵を寄せています。長命寺(㉒)に辞世の句を記した碑や、門人の五返舎半九らによって建てられた句碑があります。なお、五辺舎半九の子は北斎に弟子入りして北岱(北嶺)と称し、絵師として活躍しました。

北斎ゆかりの地 散策モデルコース2

約5.5km

向島～墨堤

スタート
地下鉄 押上駅(A3出口)
22分
牛嶋神社
9分
三囲神社
10分
長命寺
20分
白鬚神社
5分
法泉寺
22分
隅田川神社
5分
木母寺
8分
堤通二丁目辺り
5分
東武伊勢崎線 鐘ヶ淵駅
ゴール

北斎ゆかりの地 散策モデルコース1

約7.5km
(錦糸町ゴールは約4.5km)

両国～東京スカイツリー
両国～錦糸町

スタート
JR総武線・地下鉄 両国駅
5分
旧安田庭園
12分
両国橋
6分
回向院
5分
本所松坂町公園
7分
烏亭焉馬居住の地説明板
16分
榛稲荷神社
6分
北斎通り
5分
緑町公園
15分
大横川親水公園
42分
牛嶋神社
9分
三囲神社
14分
東武伊勢崎線 とうきょうスカイツリー駅
ゴール
26分
JR総武線 地下鉄 錦糸町駅
ゴール

人文社復刻古地図 天保十四（1843）年御江戸大絵図（部分）北斎84歳頃

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（空間データ基盤）を使用した。（承認番号　平22業使、第236号）

現代図凡例

- 墨田区区界
- その他区界
- JR線
- 私鉄線
- 東京メトロ銀座線
- 東京メトロ半蔵門線
- 都営地下鉄浅草線
- 都営地下鉄新宿線
- 都営地下鉄大江戸線
- 区役所
- 神社
- 寺院
- 名所
- 北斎ゆかりの地
- 北斎が描いた場所
- ゆかりの地・描いた場所
- 北斎ゆかりの地散策モデルコース1
- 北斎ゆかりの地散策モデルコース2

1:24000　0　500m

1 関屋の里
2 木母寺
3 隅田川神社
4 法泉寺
5 白鬚神社
22 長命寺
7 牛嶋神社
6 三囲神社
8 達磨横町
9 法性寺
10 厩橋
11 肥前平戸新田藩 松浦家の上屋敷
12 駒止石・旧安田庭園
13 御竹蔵
15 回向院
14 両国橋
16 吉良邸跡・本所松坂町公園
17 本所割下水・北斎通り
20 津軽屋敷・緑町公園
21 烏亭焉馬居住の地説明板
19 榛馬場・榛稲荷神社
18 本所林町三丁目

古地図凡例

- 主要道路
- JR線
- 私鉄線
- 東京メトロ半蔵門線
- 都営地下鉄浅草線
- 都営地下鉄新宿線
- 都営地下鉄大江戸線
- 北斎ゆかりの地
- 北斎が描いた場所
- ゆかりの地・描いた場所

※古地図に掲載の主要道路、鉄道路線、駅などについては、概ねの位置として記しています。

北斎 ゆかりの地マップ